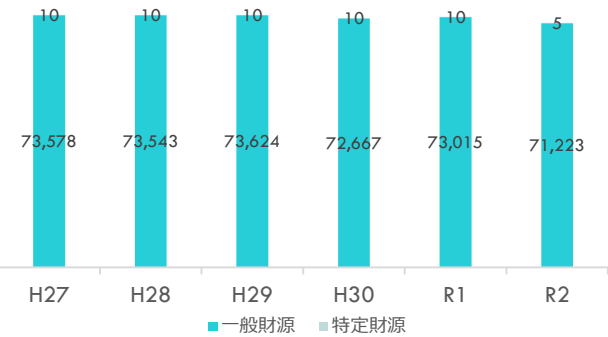
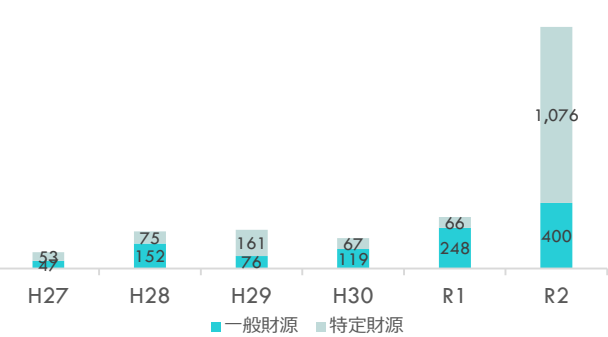


危機管理課

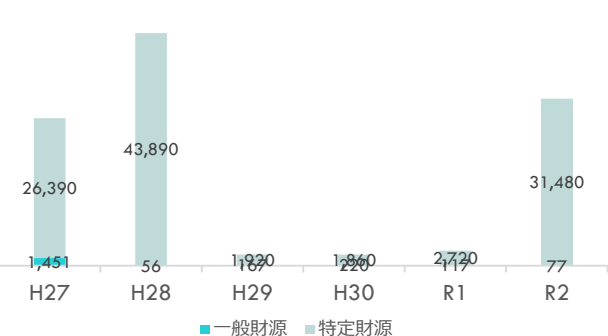
経常的経費の財源(万円)



臨時的経費の財源(万円)



普通建設事業費の財源(万円)



現状と課題

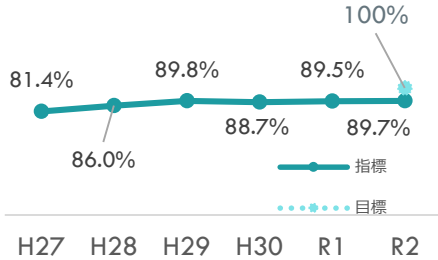
本市は、過去に豪雨や高潮などにより被災したことから、ハード整備の実施と合わせ、消防団や自主防災組織の充実・強化に努め、災害に強いまちづくりを目指しています。

しかし、近年の災害は、ゲリラ豪雨にはじまり大河川の氾濫等、大規模化する傾向にあり、現状では対応が難しい大災害が多数発生しています。東日本大震災後や今後発生が想定されている南海トラフ地震については、災害を完全に封じ込めようとするのではなく、被災したとしても人命が失われないことを最重視した「減災」の考え方が常識となりつつあります。こうしたことから、施設の耐震化や消防資機材、備蓄用品等の充実をはじめ、防災通信網の効果的な運用に努めるとともに、市民自らが「自分たちのまちは、自分たちで守る」という意識のもとで自主防災組織の育成・強化を図り、市民一人ひとりの危機管理意識を醸成することで、災害に対する地域力の向上に努めていく必要があります。

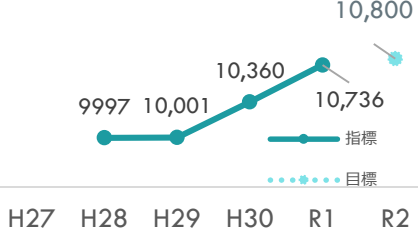
また、消防体制については、東備消防組合と消防団の連携により消防防災活動を行っていますが、消防団員数に地域間の偏りがあるため、団員の適正な配置が課題となっています。

成果指標

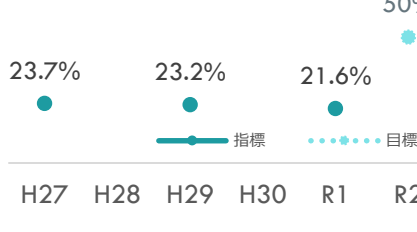
自主防災組織率 (%)



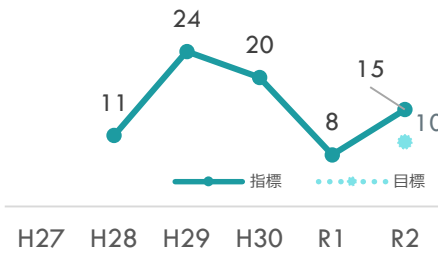
おかやま防災情報メールの登録件数 (件)



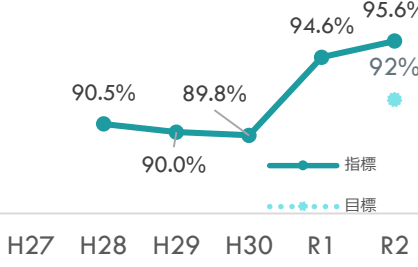
備蓄品を3日以上用意している市民の割合【市民意識調査】 (%)



火災による消防団の出動回数 (件)



消防団員の定員充足率 (%)



指標の説明・・・

各指標の目標値に近づくほど、地域の防災力が高まります。

課題に対する主な取組

課題	課題に対する主な取組	概要	臨経区分	予算執行(万円)	特定財源(万円)	アウトプット (どのくらいの事業や取組を行ったか)	アウトカム (どれだけの成果が得られたか)
消防資機材等の充実	消防施設等の整備と充実	小型動力ポンプ付軽積載車の更新	普通建設事業費	1,317万円	1,280万円	マニュアル車からオートマチック車へ更新を行った（小型動力ポンプ付軽積載車3台更新）	オートマチック車限定免許の団員も運転できるようになった（MT車39台・AT車15台）
備蓄用品の充実	避難所感染症対策用品の拡充	避難所感染症対策用品の備蓄	経常的経費	7,772万円	686万円	事前開設避難所へのパーション・簡易ベッドの配布、アルコール消毒液等の感染対策用品準備（パ160個・ベ320個）	R2年度は避難所開設がないため、成果が得られていない。
防災通信網の効果的運用	防災行政無線整備事業	災害時に住民へ迅速に情報伝達するため整備を行う	普通建設事業費	2億9,332万円	29,300万円	R2年度からR4年度の3年間で、行う整備工事に対し、R2年度は、請負業者の決定を行い、機器の生産を始めた。	R2年度は契約や機器の生産準備のための、成果が得られていない。 R2：48.2%→R4：100%（予定）
自主防災組織の育成・強化	地域防災力の向上	自主防災組織の活動活性化のため訓練用資機材等購入に対し助成	臨時的経費	56万円	—	自主防災組織5団体に、訓練用資機材（ヘルメット20個、リヤカー1台、発電機1台、車いす5台等）購入に対し助成。	成果について、はかることは難しいが、コロナ禍において5団体へ補助をすることができ、資機材の充実が図れた。
消防団員の確保	消防体制の整備と充実	消防施設を整備することで活動しやすい環境をつくる	普通建設事業費	130万円	120万円	老朽化した半鐘台を撤去し、ホース乾燥塔1塔を新設した。	ホース乾燥塔を整備したことにより、消防団員の安全確保が図れた。

施策の評価

一次評価者	役職	危機管理課長	小型動力ポンプ付軽積載車の更新や消防施設を整備することで、消防団活動の環境整備を行うことができた。また、令和2年度から3箇年計画で実施しているデジタル防災行政無線整備事業の契約を締結することができた。引き続き、消防施設や防災行政無線の整備をすすめるとともに、東備消防組合との連携・協力によって、自主防災組織率の向上を目指す必要がある。
	氏名	青木 克行	
二次評価者	役職	市長公室長	毎年のように豪雨災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしています。集中豪雨や台風による土砂災害や高潮災害、さらに南海トラフ地震も想定し、人命を最優先に考え、一人ひとりが避難行動を起こしてもらえるよう、住民の意識を高める必要がある。そのため、地区ごとに出前講座や避難訓練を実施していきましょう。
	氏名	佐藤 行弘	